

令和4年度 第3回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

# 公共交通を利用した観光に関する アンケートの追加分析 (沖縄県観光統計調査との傾向把握)

令和5年3月20日

## 【ご意見】

◆今年度の公共交通利用者を対象としたアンケート（以降、公共交通の利用者調査）とレンタカー利用者の多い沖縄県観光統計調査（以降、県調査）を比較することで、公共交通利用者の特徴や傾向を分析してほしい。



## 【対応内容】

◆県調査と同様の設問において比較を行い、傾向を把握した。

- ・性別、年代
- ・居住地
- ・来訪回数
- ・同行者
- ・宿泊数
- ・交通手段
- ・来訪目的
- ・訪問先

※なお、訪問先の比較については、公共交通の利用者調査と同様の区分になっている設問のみ行った。

## 2. 調査概要

### 公共交通の利用者調査と県調査の調査概要

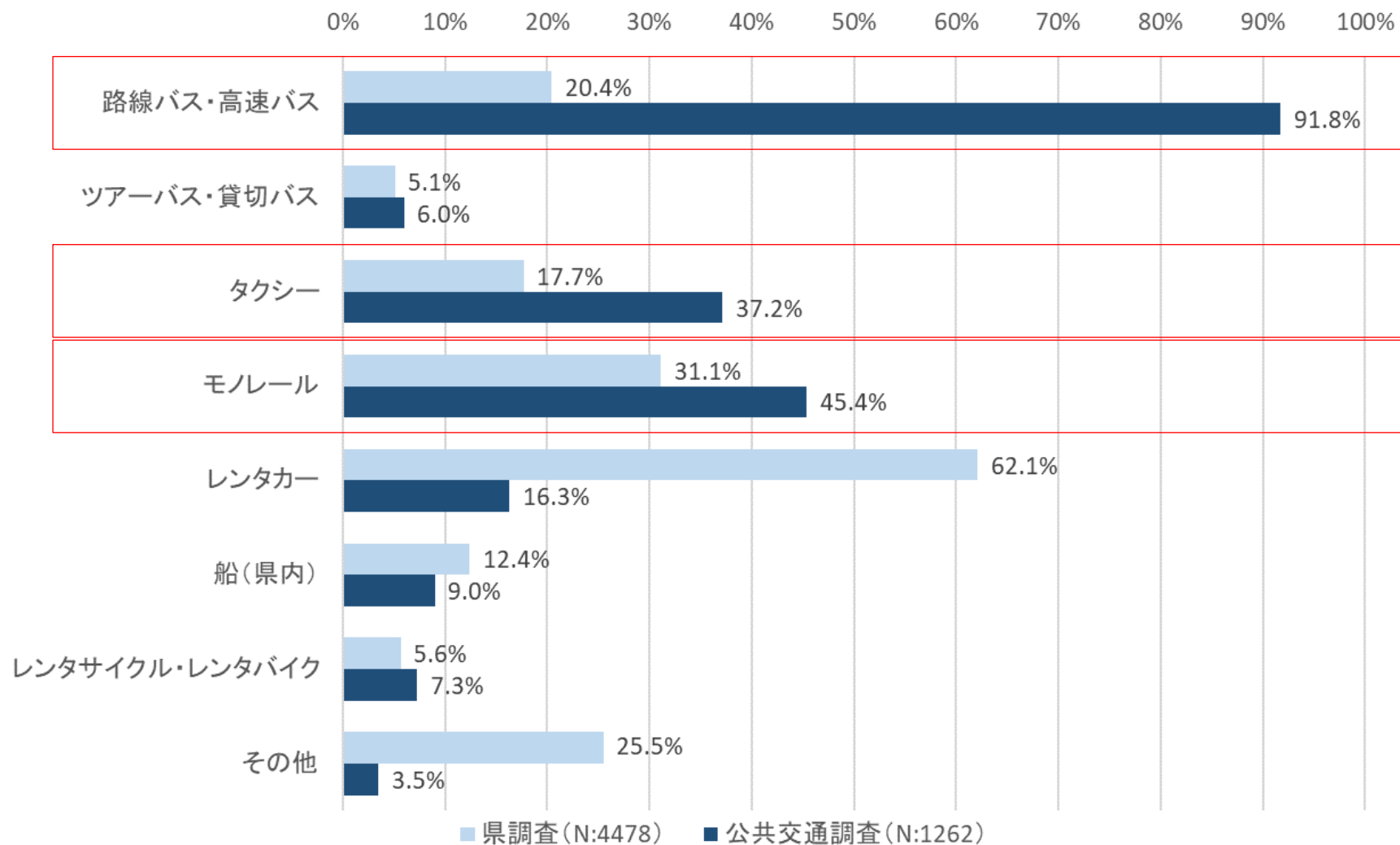
- ◆公共交通調査は、令和4年度に公共交通を利用した国内観光客を対象として観光系路線バスの車内にQRコードを掲載したツールを設置して、WEBにて回収した。
- ◆県調査では、令和3年度に航空機を利用して県外に出域する日本人を対象として、各空港の待合室の座席背面、壁、柱にURL及びQRコードを記載したポスター等を設置して、WEBにて回収した。

項目	公共交通利用者を対象としたアンケート調査 (R4年度) 【公共交通の利用者調査】	沖縄県観光統計調査 (R3年度) 【県調査】
調査目的	・沖縄本島を訪れ公共交通を利用した観光客に対し、公共交通の情報収集に対する不便・不満の有無やその理由等を把握するためのアンケート調査を実施。	・日本人観光客の実態を把握し、観光施策の企画・立案・評価に資することを目的として、沖縄を訪問する日本人客を対象としたアンケートを実施。
調査対象	・沖縄本島を訪れ、公共交通を利用した国内外観光客 ※県内居住者は除く	・航空機（直行便）を利用して県外へ出域する日本人客 ※修学旅行生及び調査対象地域居住者は調査対象者から除く
調査時期	・令和4年4月1日～8月31日	・令和3年10月から令和4年3月 ※令和3年4月から令和3年9月の調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止
調査方法	・新型コロナ対策として、観光系路線バス（沖縄バス、沖縄エアポートシャトル、やんばる急行、カーリー観光、東京バス）の車内にQRコードを掲載したA4サイズのツールを設置し、WEBにて回収。	・インターネット上にアンケート回答サイトを作成し、サイトにアクセスできるURL及びQRコードを記載したポスター等を各空港の待合室の座席背面、壁、柱に掲示
回収状況	・1,263票	・4,478票

## (1) 交通機関

◆公共交通の利用者調査では、県調査と比較すると、「**路線バス・高速バス**」「**タクシー**」「**モノレール**」の割合が高い。

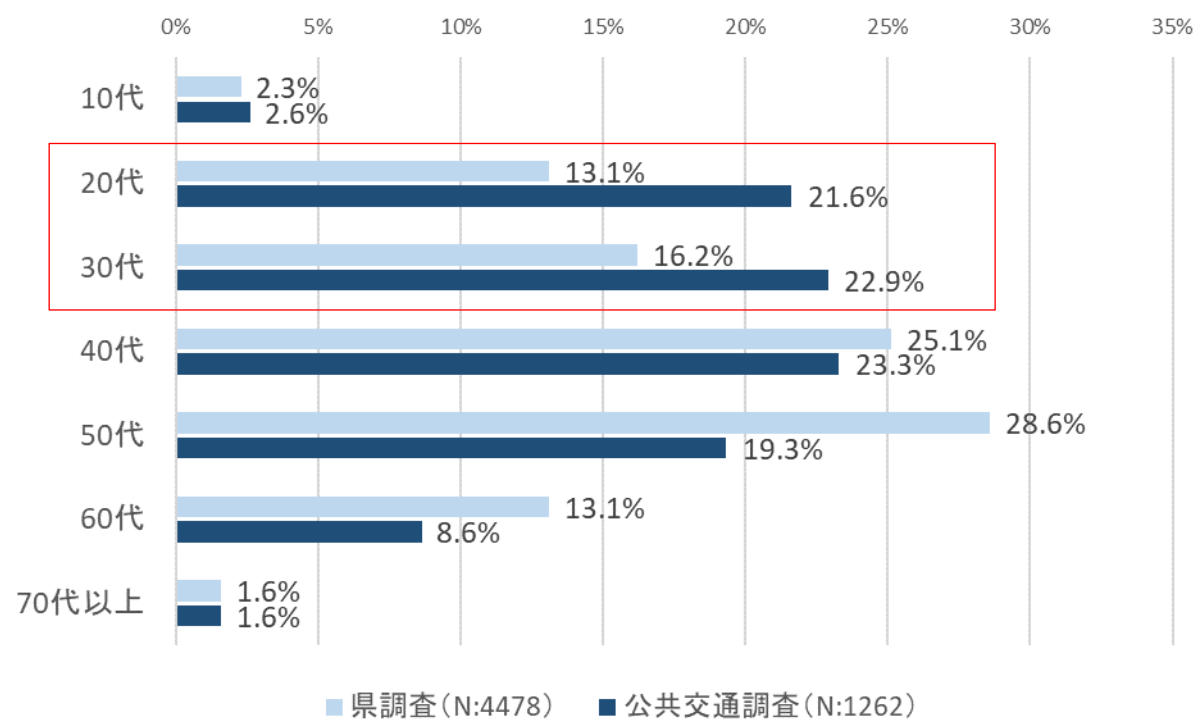
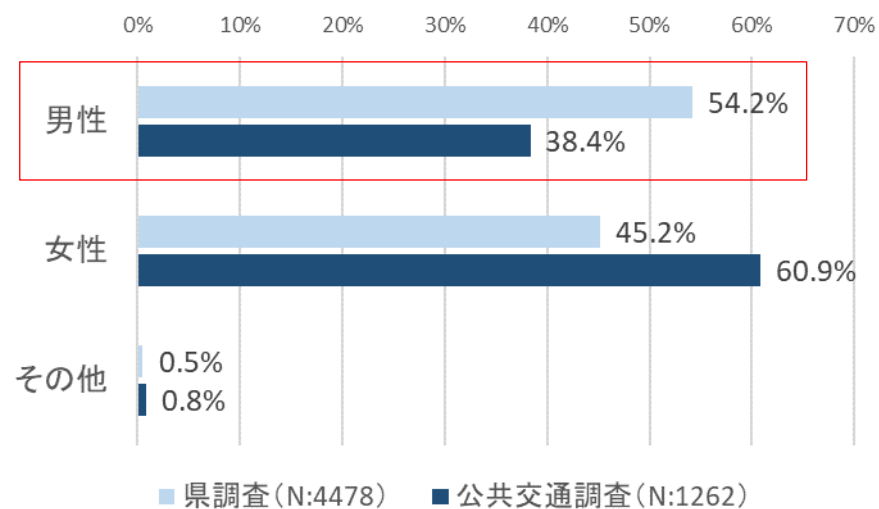
※県調査における「路線バス」の割合について、令和3年度調査ではコロナ禍前の令和元年度調査よりも高くなっている。（令和元年度（コロナ禍前）：10.8% ⇒ 令和3年度（コロナ禍）：20.4%）



## (2) 性別・年代

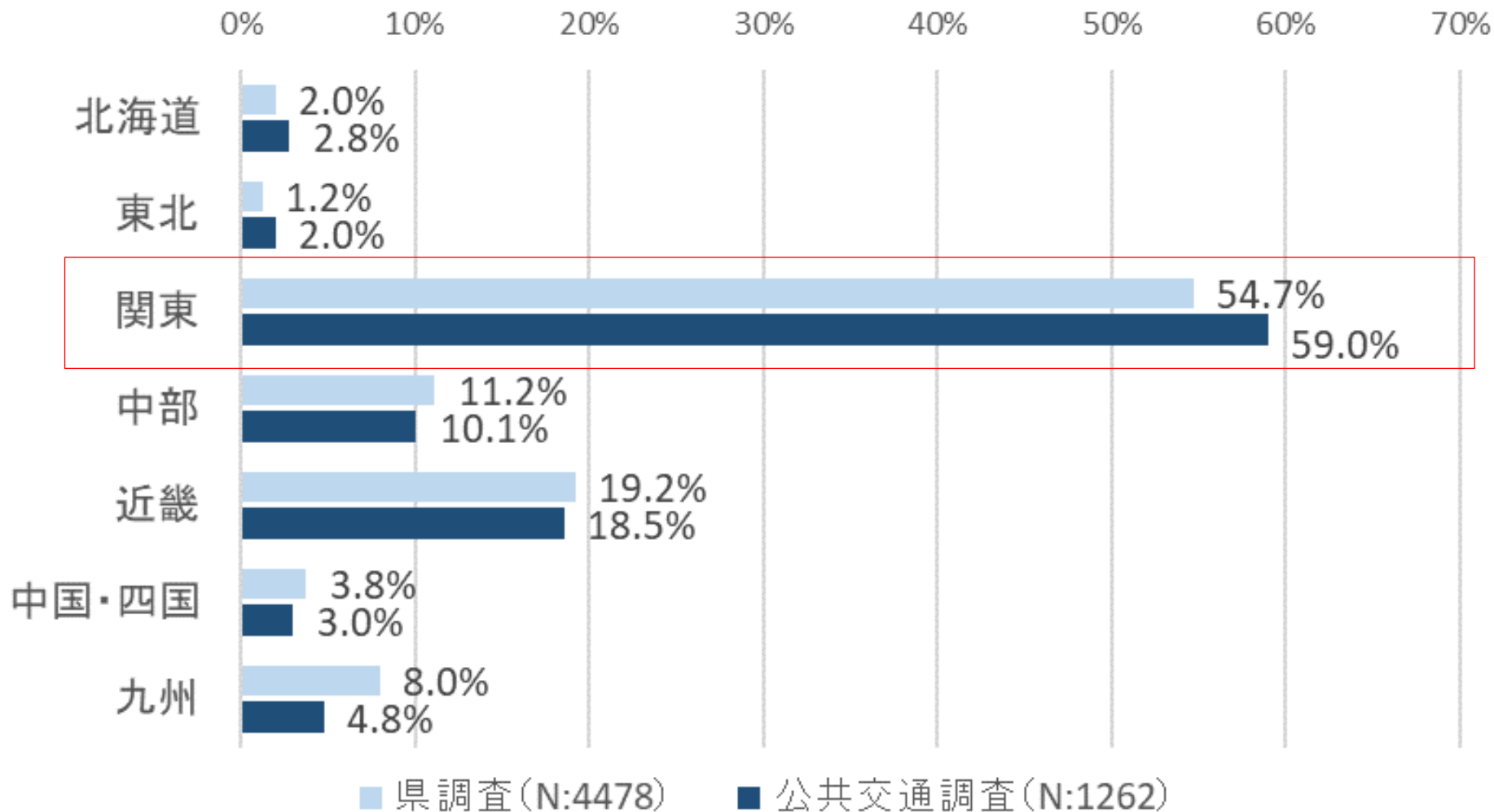
◆性別については、公共交通の利用者調査のほうが県調査より**男性の割合が低い**。

◆年代では、公共交通の利用者調査のほうが県調査より、**20代・30代の割合が低い**。



### (3) 居住地

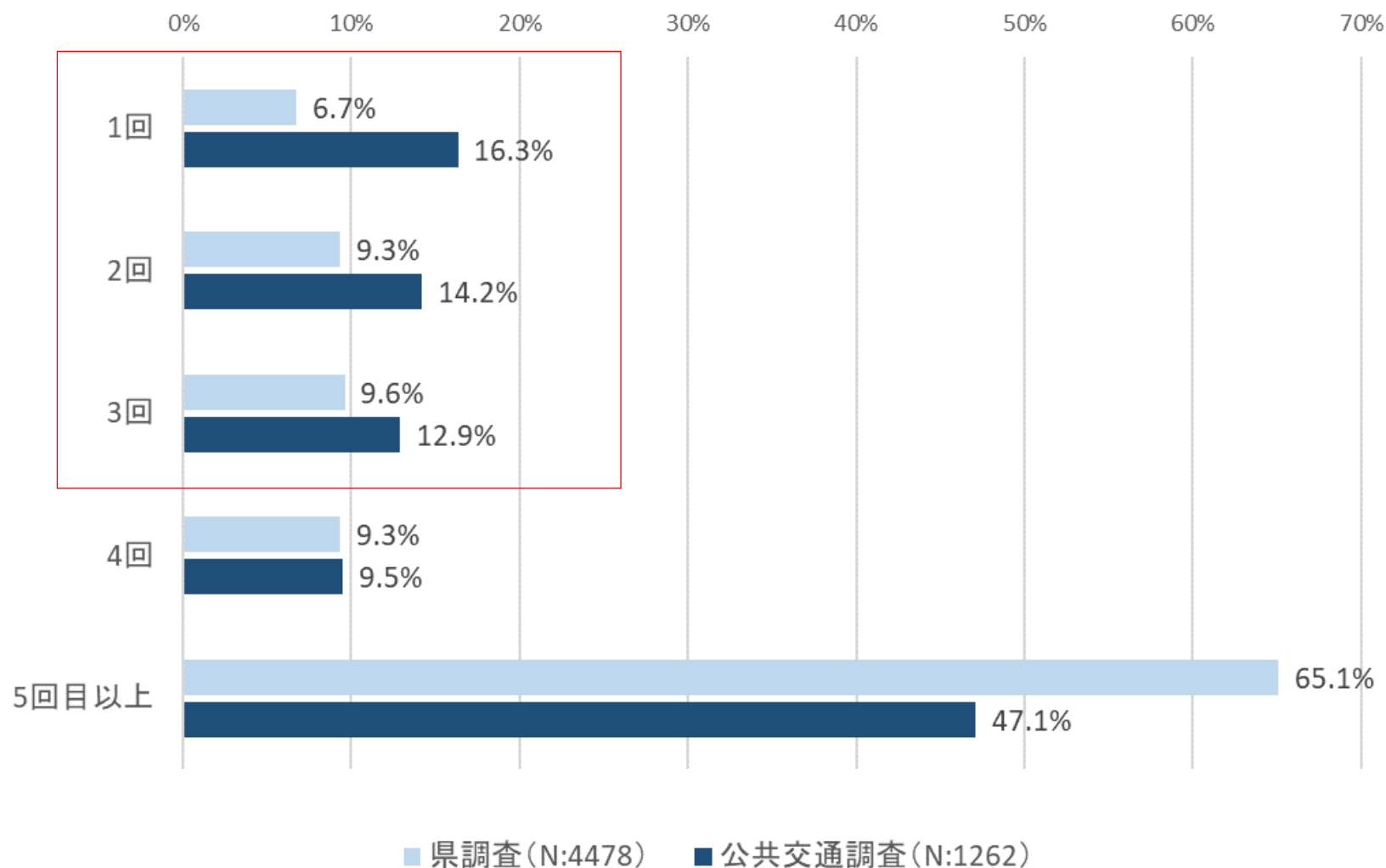
◆居住地について地方区分別で確認すると、公共交通の利用者調査、県調査ともに、**関東地方が最も多く**、次いで**近畿地方**となっている。



## (4) 来訪回数

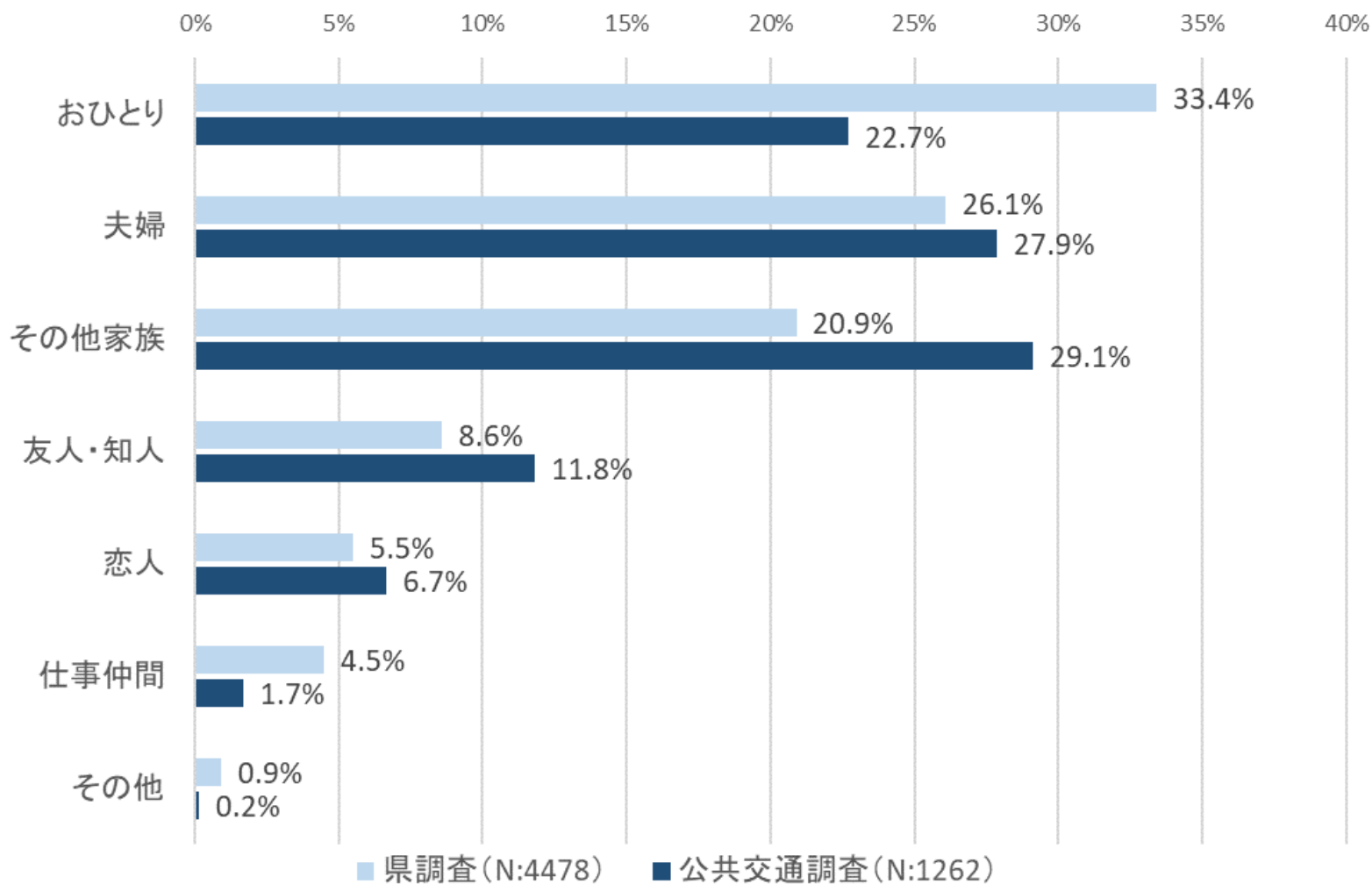
◆公共交通の利用者調査では、県調査と比較すると、公共交通調査のほうが、**来訪回数が1～3回の割合が高い**県調査のコロナ禍前（令和元年度）の結果と公共交通の利用者調査は同様の傾向となっている。

※県調査における「来訪回数」について、令和3年度調査ではコロナ禍前の令和元年度調査より5回目以上が増加しており、1～4回は減少している傾向にある。



## (5) 同行者

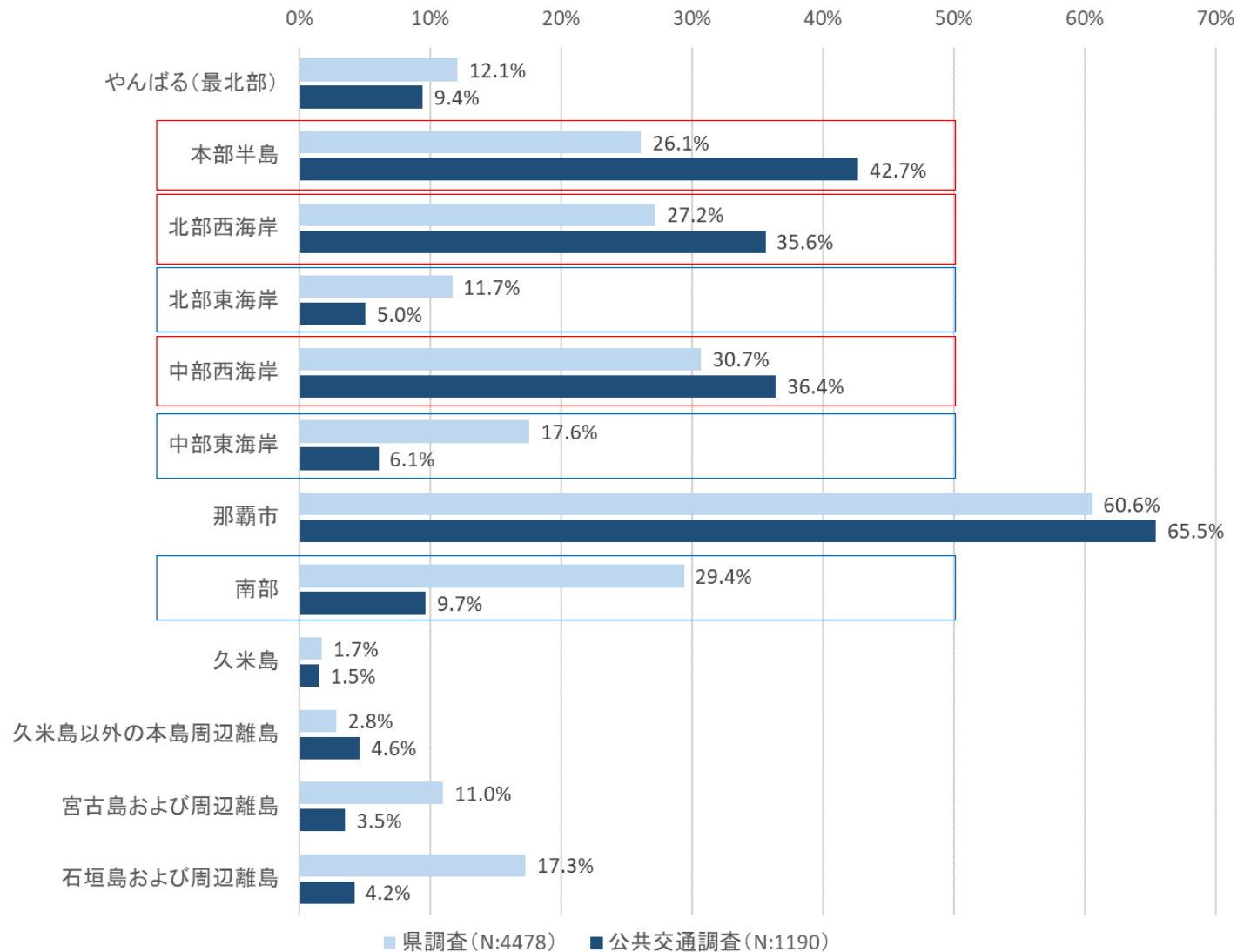
◆県調査の利用者調査のほうが本事業調査（公共交通の利用者調査）より、おひとりの割合が高い状況。県調査は昨年度調査結果でありコロナの影響が表れていることが推察される。





## (6) 訪問先

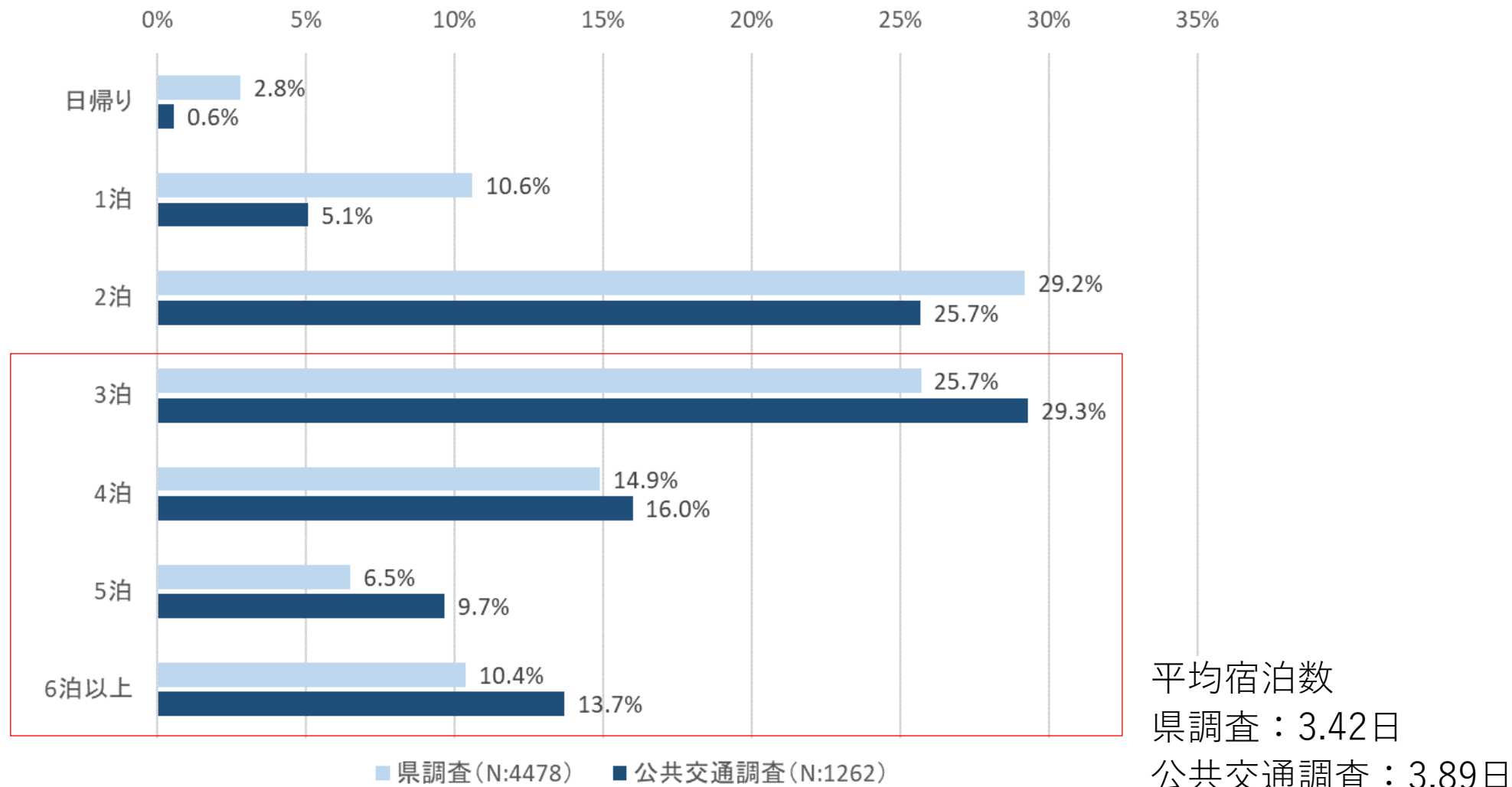
- ◆公共交通の利用者調査では、県調査と比較すると「本部半島」や「北部西海岸」「中部西海岸」の割合が高い一方で、「北部東海岸」「中部東海岸」「南部」の割合が低い。
- ◆公共交通の利用者調査では、観光系路線バスを対象としたアンケートであるため、路線運行本数の多い地域での訪問者が多くなったと考えられる。



## (7) 宿泊数

◆公共交通の利用者調査では、県調査と比較すると、**3泊以上の宿泊割合が高く、長期滞在の傾向にある。また、平均宿泊数についても0.47日上回っている。**

※県調査における「宿泊日数」について、令和3年度調査ではコロナ禍前の令和元年度調査より長くなっている。（令和元年度（コロナ禍前）：2.77日 ⇒ 令和3年度（コロナ禍）：3.42日）



## (8) 来訪目的

- ◆来訪目的は、公共交通調査、県調査ともに、**観光地巡りが最も多い**。
- ◆公共交通の利用者調査では、県調査と比較すると、「**保養・休養**」、「**海水浴・マリンレジャー**」が**高い割合**を占めている。
- ※「海水浴・マリンレジャー」が高い割合を占めているのは、調査時期が起因していることも考えられる。  
 (【調査時期】公共交通調査：4～8月、県調査：10～3月)

